

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

## ②施設・事業所情報

名称：わらべうた 鷺沼保育園	種別：保育所
代表者氏名：園長 池本 澄恵	定員（利用人数）： 60名
所在地：〒216-0004 神奈川県川崎市宮前区鷺沼1-8-5エトワレオトール	
TEL：044-982-1313	ホームページ： <a href="https://www.kidslife-nursery.com/facility/kanagawa/kawasaki/saginuma/">https://www.kidslife-nursery.com/facility/kanagawa/kawasaki/saginuma/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2016年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：HITOWAキッズライフ株式会社	
職員数	常勤職員： 11名 非常勤職員 4名
専門職員	（専門職の名称）
	保育士： 15名 看護師： 1名
	栄養士： 1名 調理員： 2名
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等）
	保育室4室・調理室・事務室兼 医務室・更衣室 乳児用トイレ2か所・幼児用トイレ1 か所・みんなのトイレ1か所

## ③理念・基本方針

<p>【施設・事業所の概要】</p> <p>【保育理念】</p> <p>～子どもの時間が流れる保育園～</p> <p>家庭のようなあたたかい場でいきいきとした「生活」と「あそび」を子どもたちに</p> <p>【保育目標】</p> <p>生きる力の基礎を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・からだを育む～しなやかなからだと手</li> <li>・つながる力を育む～友だちも大人も大好き</li> <li>・学ぶ力を育む～チャレンジする好奇心</li> <li>・生活力を育む～自分の事は自分で自信</li> </ul> <p>【保育方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立して生きる未来の力を育てることを見通し、子ども一人ひとりの今を心から尊重します</li> <li>・安心できる人間関係の中、子どもが自分に出会い、仲間と共に生活をする力を育みます</li> <li>・多様な経験をし、問題は必ず解決できる自信を重ね、意欲的に学びにむかう力を育みます</li> <li>・丁寧な生活を営み、自分で決める経験を自信に、自らルールに気づき生活を創りだす力を育みます</li> <li>・保護者・地域・保育者が感動をわかち合い、成長を見守るパートナーとして、一人ひとりの子どもの生きる力を育みます</li> </ul>
---

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

##### 【SDGSを意識した取り組み】

- ・『子ども英語ふぁんぱりん』英語に触れ、異文化に触れ、子どもたちの世界を広げる
- ・『リズムモン』ダンスを通じて、子どもの豊かな感性や表現する力を養い、想像力を豊かにしたり、運動器の向上、小学校への接続
- ・『キッズおそうじチャレンジ』自然や環境への配慮としておそうじ本舗監修のプログラムを土台とし、おそうじで社会とつながる
- ・『絵本日本一プロジェクト』絵本巡回図書館では厳選した6つの絵本セットが2か月ごとに保育園に届いたり、絵本寄贈プロジェクトなどの寄付

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年6月29日（契約日） ～ 2021年3月12日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（ 年度）

#### ⑥総評

##### ◇特に評価の高い点

- ・保護者に園での研修や取り組み、保育の考えを共有している

毎月の園だよりでは、予定や活動内容を伝えるだけでなく、園内研修や保育についての考えなども示し、保護者に対して透明性をもって、また保護者の安心感につなげられるような取り組みとなっている。日々の保育の様子についてはドキュメンテーションを通じて職員の感想、職員の思いも示しており、コロナ禍においても保護者との情報共有に力を入れ、職員に対して親近感をもってもらえるように努めている。

- ・園カルテによって地域の情報を収集する仕組みがある

今年度より、本社と共同で園カルテを作成しており、地域の人口動態、他園の状況、保護者からのアンケートを踏まえ課題や環境の変化等の分析を行うことができるフォーマットとなっている。園長はこのフォーマットに基づき、園の所在する地域の情報収集を行うために、地域の関係者や団体への関りに取り組んでいることから、園として地域の環境を把握し、また関りを深めるツールとして有効な仕組みであることがうかがえる。

- ・リモートによる保護者面談を行い保護者支援に取り組んでいる

コロナ禍において、保護者参加の行事の中止や送迎時の会話に制限が設けられている状況の中、保護者とのコミュニケーションツールとしてリモートミーティングの使用が法人として許可され、保護者とのzoom参観や懇談会が実施されている。コロナ禍における保護者とのコミュニケーションを補完につなげることができており、今後の定着も期待されている。保護者アンケートにおいても、保護者の理解ある意見が多く聞かれており、日頃のコミュニケーションの構築がうかがわれる。

##### ◇改善を求められる点

- ・地域とのネットワークをさらに充実させることを目指している

地域の社会資源の活用としては、商業施設や近隣の畑での活動に参加したり、高齢者施設とは毎月交流機会を設けたり、などの取り組みがある。園では、これらの活動をさらに充実させることや、地域の子育て家庭に保育参加などを呼び掛けながら地域に開かれた園となることなどを目指している。気軽に足を運んでもらえるように、活動内容の充実と、認知度の向上を課題として検討をはじめている。

・衛生管理にさらに力を入れて取り組むことが望まれる  
遊具の消毒に関しては、0歳児は毎日、乳児は1週間に1回（アルコールは日々）、幼児クラスでは、月に1～2回であり、布類は洗濯を実施してブロックなどは次亜塩素酸水で消毒して衛生管理に努めているとのことである。しかしながら、現在はコロナ禍であることもふまえ、0歳児を中心としてさらに回数を増やすなど衛生管理に力を入れることが望まれる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受審したことで園での様々な取り組みに対して、アドバイスを頂いたことで、客観的に見直すきっかけとなった。これからも地域に根付き、子ども・保護者が安心して過ごせる、そして職員が定着していくような魅力的な園となるようにさらに信念を持って精進していきたい。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり